

2 新約聖書が語る平和実現のメッセージ

* 72 人の使徒たちの宣教における平和宣言 (ルカ 10:1-12 参照)

・これら 72 人の宣教への派遣は、ルカだけが伝えている。宣教における平和宣言は、マタイ 10:7-16 をも参照。ルカが語る 72 人の使徒は、異邦人の 72 の部族への宣教を暗示していると言えよう。また、先の十二使徒の派遣 (ルカ 9:1-6 参照) は、イスラエルの十二部族への宣教を示している。ちなみに、使徒言行録が伝えるサマリアでの宣教 (同上 1:8;8:5 参照) は、以上の二回の宣教を結び付けていると言えよう。

「この家の平和があるように」と言う挨拶はヘブライ語では *shalom* は、すでにメシア・イエスの誕生にまつわる祝福として天使が歌った (ルカ 2:14 参照)。さらに、イエスが復活させられた後、弟子たちの真ん中に立って「あなたがたに平和」と宣言なさった (同上 24:36 参照)。これは、聖書においてある人物を特徴づける言い方である。

* 平和を実現する人々 (マタイ 5:9 参照)

ヘブライ語の *shalom* は、敵意の不在という以上に、満たされている、社会と個人の間関係が正しく整えられていること意味している。だから「平和を実現する人々」とは、神とまた人との関係においてまさに和解をもたらす人々と言えよう。しかも、彼らこそ、天の御父の世との和解という使命に与っているのである (二コリント 5:19 参照)。

* 敵を愛しなさい (マタイ 5:43-48 参照)

これこそ、山上の説教のハイライトと言えよう。このような、愛はまさに根源的愛に他ならない。つまり、天の御父の子どもになれる愛の実践と言えよう。つまり、「天の御父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい (同上 5:48 参照)」というご命令に従うことに他ならない。

* わたしの平和を与える (ヨハネ 14:27 参照)

この平和の背景には *shalom* があるので、終末における究極的な神との和解に基づくイエスが与えてくださる平和なのである。つまり、イエスの平和は、弟子たちにくくださる御父との終末に完成する和解の祝福に他ならない。しかも、イエスが弟子たちにもたらす平和こそ、御父への信頼と、徹底した信仰によって御父に従い、愛において知ることから生じる実りと言えよう。だから、「キリストの平和があなた方の心を支配するようにしなさい

(コロサイ 3:15 参照)。」と命じられたのである。

*復活のイエスの平和宣言 (ヨハネ 20:19-23 参照)

「平和があるように」は、弟子たちの恐れを取り除くことができる、イエスが下さる平和の賜物と言えよう。それは、イエスが十字架上の死と復活によって世とその指導者に打ち勝たれたので、弟子たちを神の子 (同上 1:12 参照) にすることがお出来になった。

しかも復活が存在の栄光に輝く状態への全面的変革なので、まさにお体は、靈的体に変革されたと言えよう (一コリント 15:44 参照)。

とにかくイエスの十字架上での御死去は、死と罪に打ち勝たれた体験なので、まさに真の平和を実現させたのである。だから、イエスがもたらされた平和は死と罪に対する勝利宣言と言えよう。

*「キリストはわたしたちの平和」 (エフェソ 2:14-22 参照)

このくだりは賛歌の形式をなしているようである。ここで言われている壁は、エルサレミの神殿内にある高さ1メートル半の石の壁であろう。それは、「異邦人の庭」から中庭を分離するためであった。

まさにイエスは、その十字架の死によって、ユダヤ人と異邦人之间にあった敵意を滅ぼし、平和と和解をもたらされたのである。

今日の世界に蔓延している敵意や、憎しみ、差別や偏見の壁は、イエスの十字架によって徹底的に取り去られるのである。

まさに真の世界平和の実現は、政治的また国際関係の次元を超えた十字架の次元でこそ可能なのである。だから、ミサで「世の罪を取り除く神の小羊、平和をわたしたちに。」と祈るのである。